



入選

小林 優希 (こばやし ゆうき) 由木中央小 3年生

作品名：「ココロ屋」を読んで

図 書：ココロ屋

ひろきは、友だちのゆうやとすぐにケンカをしてしまい、先生におこられてばかりでした。「心を入れかえなさい。」と言われたひろきは、しかられたことがくやしくて、教室をとび出しました。すると、ろうかのむこうから「ココロ屋」というお店があらわれました。「ココロ屋」では、いろいろな心が売られていたので、ひろきはやさしい心、す直な心、温かい心をためしてみました。でも、さい後には自分の心に決めました。

わたしのお気に入りの場面は、さい後には自分の心にもどした場面です。なぜなら、もともと自分の心だし、ほかの心をけいけんして、ひろきの心が少しかわったからです。それまで、何の心にするのかハラハラドキドキでした。

わたしがこの本を読んで、思い出したことがあります。わたしが友だちにいやなことを言ってしまった時のことです。「自分の心を入れかえないと。」と心の中で思いました。人にいやなことを言った人は、言われた人の気持ちをわかっていないことを、この本で学びました。

わたしは、心を入れかえたいと思うけど、自分の心でやさしくしたり、人の気持ちを考えながら、生活していったりした方がよいと思いました。

わたしはこの本を読んでよかったと思いました。理由は、「心の気持ちによってかわる。」ということがわかったからです。